



## バンコックで孤児院を訪問

東京府中 吉野亥之太郎

去るクリスマスの日、第三五八区内のイン  
ターアクトクラブ顧問教師十二名と同委員長  
の私と福永委員はタイ国およびシンガポール  
国を、教育事情と海外視察のため訪問した。  
本旅行で印象に残ったことはバンコック南  
RC例会に招待されたことである。クラブ会  
長は心から私たちを歓迎し、しかも一行を歓  
迎する意味で会員夫人も多数、例会に出席さ

れたことであった。そして大変参考になった  
ことはS.A.A.がメインテーブルに座り、終始  
会場内に目を光らせていることと、会長が開  
会から閉会までユーモアある話で例会を運営  
していることであった。このクラブはタイ国  
でも格式のあるクラブだそうである。

次に私と福永委員はバンコック滞在のある  
日、現地日本商社に働く邦人の夫人が孤児の  
救済に大変なご奉仕をされていることを聞き  
その孤児院へ慰問に出掛けることとした。

ピーエラ孤児院は生後一カ月位の赤子より  
六歳頃までの子供たち約二百八名が収容され  
ている。院長はピーエラ女史といい、フラン  
スのソルボンヌ大学を卒業博士の学位をもつ  
ておられ、二十年程前にタイ国王、王妃とわ  
が国に来訪されている。既に女史は七十六歳  
になっているが、その一生をタイの孤児のた  
めに捧げている方である。

女史の話によると、朝になるとゴミ箱の中  
とか、芝の上に、生後もない乳のみ子が捨て  
てあるとか、そのため孤児の収容施設が狭  
く、増設をしたいのだが資金がなく、困窮し  
ているとのことであった。建設に必要な資金  
はタイ国貨幣で四〇万バーツ邦貨約六百万円  
位とのことである。

既に前記の夫人方が六〇万円位拠金をした  
ものの、目標額には程遠いので日本の皆さん

が援助してくれればと切望している。

私は世界社会奉仕のシステムを考えた。寄  
金を希望するクラブは国際ロータリーに申請  
し、国際ロータリーはリストを各地区に発表  
し、地区独自で選択して地区内各クラブに協  
力を要請するが、実際に資金を海外の对手ク  
ラブに送金しても、その資金がどのように使  
われたかは、物品でない限り確認されていな  
い矛盾があるのが現況ではないだろうか。

それから考えてみると、この孤児院の場合  
は現地の日本商社が、或いはそこに働く人々  
の夫人方が奉仕されている。このようなプロ  
ジェクトには、何かロータリーとして援助が  
出来ればと思ったのである。

私たち二人は三十分で帰る予定であつた  
が、私たちの周りにまつわりつく幼い子たち  
の手を振り払って帰ることは出来ず、長い時  
間、子供たちと遊んであげた。このように施  
設への慰問は主にご婦人方が多くされるが、  
子供たちとしてはむしろ男性の慰問の手が喜  
ばれることを私は観察できたのである。これ  
は大きな収穫であり、ロータリーアン自らが率  
先して孤児の慰問をされると良いと思うし、  
インターアクト或いはロータリーアクトも女子  
会員のみでなく、奮って男子会員も奉仕され  
ると良いのではないかと感じた次第である。

(不動産管理)